

「人生で一番危険なことは 叶えられるはずのない夢が 叶えられてしまうことなんだよ...」
ミヒヤエル・エンデの童話「モモ」の一節です
次々 叶う夢...あまりに早すぎる...と 心によぎるもの...
それこそが...神仏さまのストーリーなら... 唯 が気にすることなく進めばいいのでしょうか...

人と人との繋がりや 接点を輪廻のようにたぐり寄せて 唯 自身の使命を...
心を定住させることなく人生という旅を続けてきて...自分で自分を護るしかなかった人生を
誰かの為...に 置き換えて 人の心に光を感じながら...その影の部分も心にとめる
その場 その時に 答を求めず きっと何時か 誰の心にも...ストーンと落ちる...と信じて
一人ひとり人間が心の中に抱く...「火種」...仏性という「火種」に...火を点けたい...
人の心に宿る力 (相応しい人との 出逢いがなければ 発揮出来ない力...です) を 信じて...
神仏さまの教を 身に...心に...
心の雑草を刈り取り 積もった落ち葉を堆肥とし...爽やかに...

「いのちを学ぶ」そのこと...伝えられれば...扉の奥へ突き進み...
神仏さまと あなたを結ぶ...結び目作りに...

会う・逢うは 愛に通じると...出逢いによって人と人との 心を通わせること
心が心で帰ってくる...そんな世の中に 夢...ではなく 夢は叶う...と信じて

簡単でない 困難な道を選んだのです。小さな一歩は 大きな...人類にとって(大層な...)
偉大な一歩になるように...不可能だから...始めたい...
無理だ と 思った瞬間に すべては終わるから
ゼロからのスタートを...考えています。奇数でもなく 偶数でもなく...
何にも属さない 今の私の心境を託して 思いを込めて「ゼロ」...の出発
道は遠い...でも まだ日は暮れていないのです。唯に残された この世にいられる時間を
大切に生きたい 死を迎える朝まで 神仏さまの想いを 伝え続けていたい。

平成 21 年 7 月 吉日 (8 月)の会報に書かせて頂きました
文書をそのまま...引き合いに...

本当は何から記せば...いいのか...何を話せば「安楽寺」「聖天さま」に繋がるのか...と

新しく始まった...ばかりの「縁起絵巻」

不思議・奇跡・霊験あらたかな・有り得ない事...の 連続で...始めました。
信じて頂けるか...どうか...は 唯 の表現...書き方に...掛かっているという...プレッシャーに
打ち勝ち...顔を上げて...一呼吸 そして語らせて頂きます。長~くて 短い物語...を
いえ長~くて... この後も続く長~い物語? 実話を...
(ここ彼処に 目撃者も 体験者も 存在している物語?...ですが...)

唯^{わたくし} 自身のこの世での「使命」...だと信じてただひたすら...突き進んで来た道...

(幼少の頃...育った環境...諸々の全てがこの日のため...というお話は何れ...)

でも...ふと...本当だったとしても もうこの年齢では...叶っても 後がない...と
自分一人で 粹がっているだけじゃ...ないのか...と ある日...気づいた...思ったのです。

それは18年始め...でした。期限を切ろう...

思い込んでいるだけなら...もういい...

本当に神仏^{かみ}さまのご意志なら...切った期限以内に...形になるはず...だ...と
年始めの「接心(個人)」から...何人かの方にその話をし...「夢」と書いた...MDに録りました。

「2年...という期限を切って...」神仏^{かみ}さまに問いたい...

神仏^{かみ}さまが本当に 唯^{わたくし}を必要とされているのなら... 唯^{わたくし}の思いこみでないのなら

今までの艱難辛苦?もその為だったのなら...もう後が(年齢的に...)ない...のです

2年の間に何か...いえ 唯^{わたくし}の思っている様に「庵」を...「心の拠り所」を...

会報に書き続けて来た事が現実に...成らなければ...唯^{わたくし}は必要ないと...思し召したと
生きている意味も...生きて来た意味も...見いだせません。

それは 吹田の 小さな事務所...からの 脱出でした

いろいろな変転があり...

20年4月17日...無事決済が終わり...ました。

3月6日の契約から...40日余り 長かった...です。

法務局の年度変わりに遭遇し...役所に書類が止まったまま

昨年末から...「動かぬ運氣も動かして揺さぶってやろう...」等と

畏れ多いことを口走り...ひたすら走り続けて来ましたが...

ここに来て少し落ち込み...

神仏^{かみ}さまに委ねること...も 出来ず...信じることすら「?」だったのです

「庵」という大きな夢を抱えて...今立ち往生しています。

(会報に書いた文面...です。)

どんな時も...誰にも頼らず...人生駆け抜けて来た...つもりです

(その時々...お力になって下さった方は...ありますが...「御願いい!!」は初めての言葉です)

「聴快会」の時...皆さまに座して御願いい...を

「庵」の為...の ご協力を...と.....。 皆さまには 多大な?ご負担をお掛け致しました。

「何も願わぬ...祈り...」を...手を合わせ...ひたすら ただひたすら...ひたすら...

そんな苦しみにも終止符...を...打たせて頂きました...が でも

いよいよ始まる...のです。(この後の方が苦しいのかも)

「来てくれはるわ!!...来てくれはるって言うてはるわ!!」...

それは...その言葉から始まったのです。...

そう...です「名塩の聖天さま」のお言葉...だったのです

20年の暮れも押し迫った...12月30日夕刻...のことです

「聖天さま」^{もよう}詣で...何となく「お朔日」^{ついたち}にお参りする...ということ...を
平成の7~8年から始めていました...最初はひとりで...たまには^{どなた}何方かと...
他にも(途中から...)^{もよう}「八体仏」...のご縁日も...と月に何日か詣でる日が出来てきました。

(八体仏詣では...過去の「会報」に...)

それは...平成10年~11年頃にある「本」に出逢うまで...続いたのです
その出逢いこそ...唯^{わたくし}の心にしっかりと「聖天さま」が.....
と申し上げたいのですが未だ...そこまでの心もないまま...

常に変わらず「何も願わない...ただ無心に手を合わせる...」だけの...^{もよう}詣で...でした
ただ^{どなた}何方か...大切な方と...と一緒に...と書かれていましたので...
「お朔日」^{ついたち}は夫婦...揃っての...お参りにと...変化していました。

「この宇宙を貫く永遠の生命」^{いのち}、「大いなる力...無限の力...」を持った存在に出逢うため...
^{わたくし}唯が育った環境の中で今御守り・お祈りしているご宝前に出逢いました。
諸仏・諸神に出逢うため...唯^{わたくし}自身の出逢いを「入り口」として...

その「聖天さま」詣での中で

「もし俺の建立が叶いましたなら...再度お参りをさせていただきます。」

と申し上げました...所が2ヶ所...ありました。(願わない...筈が...)

生駒山の聖天さま...と信貴山(真つ暗闇の...戒壇巡り...)...でした。

戒壇巡り...では一緒だった4人が無言で同じ「願い...」を唱えられたなら...と

(結果は...×だったのですが...)

20年の12月19日...師匠と共にあるお寺をお尋ねした帰り...でした。
話の流れの中で「生駒の...山の...」という言葉が度々出て参りました。

それを12月30日に年末のご挨拶に見えた方との会話の中で...

突如...思い出したのです。

「あっお礼参りをするって言うてたのに...忘れていたわ...でもお朔日^{ついたち}やね...」

「お正月だし...連れ合いは体調が悪いし...どうしょう...どうしょう...」

「一人でもいいのかなア...どうしょう...(こんなに暮れも押し迫ってるのに...)」と

少し...困って呟いていたのですが...突如...本当に突如...

冒頭の「来てくれはるわ!!...来てくれはるって言うてはるわ!!」...に